

森林・林業界以外の人にとっての 森林の価値を知ることが大切 その上で、あらためて森林のことを 一緒に考えていきたい

一般社団法人 森と未来 代表理事 / 2019～2022林政審議会委員

小野なぎささん

これまで都会の人と森林をつなぐこと、森林浴を活用しての地域活性化を中心に、人材研修や事業支援等の活動を展開している小野なぎささん。あらたに林政審議会に加わりたいま、これからの森林に対する想いをうかがった。

「森 and 未来」ではなく「森 With 未来」

私は生まれてからずっと、東京都でも緑が多い調布市の深大寺周辺で育ちました。父は潜水士だったので、「休日には山に行きたい」ということで、子どもの頃はよく山梨県の方にキャンプに連れて行ってくれました。ですから、子どもの頃から森林は大好きでしたね。「大学では森林の中でやりたいことを探そう」と東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科に入学し、当時研究が始まったばかりの森林療法や森の癒やし効果について関心を持ったことから、働く人たちを対象にアンケートをとって『森林の癒やしを考える』という卒論を書きました。

卒業後は、働く人の心の健康対策を請け負う会社で森の中のメンタルヘルス研修を手がけたり、精神科の病院で臨床心理学を学んだり、健康リゾートホテルの立ち上げに参加したりした後、2015年に「森と未来」を設立しま

した。大学・社会人生活の中で森林関係と健康関係に関わりましたが、どうしてもどちらかの考え方に偏ってしまいがちでした。しかし、人も森林も、未だに循環し、成長していくことが大切なのは同じなので、それぞれが別の視点で活動するのはもったいないと感じました。「森と未来」というのは、「森 and 未来」ではなく「森 with 未来」ということなのです。

もう少し森林に頼ってみても良いのでは

もともと自然には揺らぎがあり、起きたことに対応しながら生きていくというのが、自然の一部である人間本来の生き方です。しかし現在の社会や経済は、「なにが正しい」ということを決めてしまいがちです。近年、メンタルケアが必要な人が増えてきているのも、そうしたことが根底にあるように感じます。

また、最近海外の方と仕事することも増え、その方たちに普段と同じ森林浴プログラムを行うのですが、無意識の中での森林への向き合い方、感じ方に違いがあるように感じます。例えば、森林の中を静かに一人で歩いてもらうと、日本人は「すごく良かった」と言ってくれますが、海外の方は「寂しかった」と言う人が多いのです。日本人は内省す

る文化、欧米はみんなに評価してもらう文化ということがあるのかもしれないが、欧米の方と比べると、日本人は森林に浸れる感覚、自然とつながれる感覚がより強いのではないのでしょうか。グローバル化が進む中で、そうした感覚を日本人自身も忘れつつありますが、一度森林に入れば、森林と自分とのつながりにあらためて気づくことができるし、そこに安らぎや癒しを感じられるはず。ですから私は、いまの時代を一生懸命生きている人たちに「もう少し森林に頼ってみても良いのでは」と言いたいし、もっと気軽に森林に触れてほしいと思っています。

他業界の課題に触れることで新たな展開が生まれる

「森林なんか必要ない」という人は誰もいないのに、森林・林業側の「森林を助けて欲しい」という想いと上手く噛み合っていないと感じているので、林政審議会委員として、そこをなんとかしていきたいと考えています。ただし、その時には森林・林業の人たちも、他の業界が抱えている課題に触れるべきだと思っております。例えば私は、森林の活用と、人の健康をどうケアするか、この2つの課題に取り組んでいます。そのなかで必ず山村地域

の活性化といった第3の課題に直面します。それらの課題を一緒に考えることで、新しい動きが生まれるのです。人間社会も森林と同じように、多様性があり、人材や経済を循環させて成長していくものなので、いろんな業界の人に森林・林業のことを分かってもらえるように伝えるとともに、多様な意見を巻き込んでいきたいと考えています。

令和の時代に入ったこれからは、自分たちだけの意見や価値観を訴えるだけではなく、様々な人たちにとっての森林の価値や役割を知り、その上で、あらためて森林をどうしていきたいのかを一緒に考えていくことが大切だと思えます。そうしていくことではじめて、本当の意味での国民参加の森林づくりになっていくのではないのでしょうか。



NAGISA ONO

1983年、東京都出身。東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科卒。森林を活用した研修開発事業、健康リゾートホテル事業、海外のメンタル事業立ち上げなどを経験した後、2015年に一般社団法人森と未来を設立。森と人の共生を目指し、幅広い活動を展開している。7月20日に新著「あたらしい森林浴」(学芸出版社)を発行予定。